

リベリア
ニンバ山脈地帯森林保全プロジェクト
現地からのお便り（2022年7月～2023年6月）

2023年8月
コンサベーション・インターナショナル



昨年度（2022年7月～2023年6月）の活動

昨年度は、対象コミュニティへ訪問し、プロジェクトの成果および持続発展性などについてモニタリングを行いました。また、ニンバ郡で開催された REDD+プロジェクトに関するワークショップに参加しました。

コミュニティ訪問

2023年6月12日、プロジェクトチームは Yolowee 村と Gbobayee 村を訪問し、これまでの活動成果とその後の様子についてモニタリングを行いました。養豚事業に関しては、両村とも豚舎の老朽化が進み、補修が必要なことがわかりました。そのため現在飼育は行われておらず、昨

年残っていた豚 15 頭は一部コミュニティで消費されたほかは売りに出され、その売上金は Gbobayee 村の小学校の運営資金として活用されました。

野菜栽培、低地稲作は今も活発に活動が継続しており、プロジェクトが設立した村落基金と貸付組合（メンバー間で小規模融資を行う仕組み）も村の女性達が主体となって運営が続いています。

また、昨年度はフロントライン保護官のうち 2 名が、森林開発局（FDA: Forest Development Authority）所属のレンジャーとなり、現在は 16 名（Gbobayee 村 8 名、Yolowee 村 8 名）がフロント保護官として森林のパトロール活動を行っています。

ステークホルダーとのワークショップ

2023 年 6 月 13 日、ニンバ郡のサリケニエでワークショップが開催されました。このワークショップは、現在準備が進んでいるニンバ REDD+ プロジェクトにおいて、地域ステークホルダーが適切な情報を得た上で、プロジェクトへ主体的に参加できることを促すもので、コミュニティメンバー、郡政府、慣習的なリーダー、NGO や市民活動団体、研究者など約 50 名が参加し、ダイキンプロジェクト対象のコミュニティも参加しました。

ワークショップでは、1) これまでの生物多様性保全の取り組みの有効性、2) 協力パートナーの可能性、3) プロジェクトのデザイン、計画、実施における潜在的なステークホルダーとそれぞれの役割、4) プロジェクトで実施すべき活動、について関係者間で協議しながら理解を深めました。ワークショップで得られた意見や情報は REDD+ プロジェクト形成に反映される予定で、森林資源の持続的な管理が、地域の経済、社会、環境全てにおいて恩恵のある形になることを目指します。またこの REDD+ プロジェクトが、将来的に地域の自然保全の更なる活動へと繋がっていくことも期待されています。

CI リベリアはこのワークショップにおいて、1) 生物多様性保全の重要性、2) 保全契約（Conservation Agreement）のアプローチ、3) 自然の力を活用した気候変動対策（Nature Climate Solution）が気候変動緩和／適応に果たす役割、に関してプレゼンテーションを行い、情報を共有する機会がありました。

このワークショップにより、ニンバ REDD+ プロジェクトに向けて、より具体的な活動案や主要ステークホルダーの特定が進み、プロジェクトのデザイン／計画から、実施、モニタリング評価まで、各段階で誰がどのように関わっていくか形が出来上がってきました。



ニンバ郡で開催されたステークホルダーワークショップ © CI Liberia



CI リベリア代表が 保全契約アプローチについて紹介 © CI Liberia

※画像および文章の無断転用はご遠慮ください。